

ピアノ奏法

音楽教育・森山 伸

ピアノ の受講生は3回生6名である。
3名ずつ2グループに分けて行った。
授業では下記の曲を採り上げた。

- * サン＝サーンス作曲
アレグロ・アップパシオナート
- * リスト作曲
巡礼の年 第1年 スイス
- * ショパン作曲
華麗なる変奏曲
幻想曲
スケルツォ第4番
- * グラナドス作曲
演奏会用アレグロ
スペイン舞曲
- * ラヴェル作曲
水の戯れ
- * プロコフィエフ作曲
ソナタ第3番
- * スクリャービン作曲
ソナタ第2番
- * ドビュッシー作曲
ベルガマスク組曲
映像第1集
アラベスク第1番
- * ラフマニノフ作曲
コレッリ変奏曲
- * プーランク作曲
ナポリ
イタリア奇想曲

ピアノ は大きなテーマとして、近現代の作品を採り上げるが、学期中に公開コンサートがあるため、演奏曲目を取り入れて

レッスンを行った。

受講生は、いずれもピアノ からピアノ を履修しており、バロックからロマン派作品に触れると共に、ピアノ では近現代の練習曲や前奏曲を演奏している。

ピアノ はそれらを踏まえた上で学生の能力にあった楽曲をそれぞれ選択し研究課題にしている。学生は手の大きさが各々異なるため、ポジションの捉え方を決定するためには、個人に対応した奏法が求められる。

今学期採り上げた曲目はいずれも高度な演奏技術が必要とされる。学生のポジション移動技術の向上に期待したが、全員の理解と技術の達成が認められる成果を得た。

近現代の曲は、古典的な演奏技術のみでは演奏困難であるため、適切な音色を得るためのタッチと手の大きさに合わせたポジション、腕の使い方を工夫することが必要である。その際にグループレッスンの形態の利点を生かし、他の学生の奏法を客観的に見ることは極めて重要なことである。次年度も引き続きグループレッスンの形態で授業を進めようと思う。

受講生からの意見としては、現在の研究の区分「近現代作品」は望ましい括りであるが、ピアノ 、ピアノ の「ロマン派作品」に比べると馴染みが薄いため、授業開始時に全体像の提示と説明があれば、より良いとの指摘があった。参考意見として考慮したい。グループレッスンに関しては、

自分以外の受講生の弾き方等を客観的に見られることの意義を感じている。その際に共通のテキストが必要であると認識している。指導して更に効率の良い授業運営を心掛けたい。

さらに、公開のコンサート出演は直接授業単位とは関係ないが、音楽への視野が広がり役立つとの意見があった。

試験は大演奏室で行うが、試験場の更なる活用を求める意見もあった。大演奏室は空き時間があまり無く時間の調整が難しいが、演奏の向上のために積極的に活用したいと思う。